

平成21年度 地方の元気再生事業

地方港湾における住民主体の マイクロビジネス型市民市場プロジェクト（地産地消のすすめ）

地方の元気再生事業は、地域活性化統合本部の「地方再生戦略」に基づき平成20年度より創設された制度です。この事業は、地方再生の取り組みを進める上で鍵となるプロジェクトの立ち上がり段階からソフト分野を中心に集中的に支援を行い、地方の実情に応じた生活の維持や魅力あるまちづくり、産業の活性化に道筋をつけることをねらいとしたものです。21年度は、NPO法人や地方自治体など新たに全国から696件の応募があり、その中から191件が選定されました。徳島県内からは4団体のプロジェクトが選ばれました。

今回採択された中から、地元のNPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしまの「マイクロビジネス型市民市場プロジェクト」について簡単に紹介します。このプロジェクトは、港の遊休空間・未利用空間を活用して、地域産物や市民創作物の市場を創出する市民市場を構築し、新たな雇用と起業家の育成・創出を図ります。また、港町小松島市再生の核となる「みなとオアシス」の市民主導による活性化を目指します。社会実験を踏まえ構築された市民市場モデルを、中心市街地やその周辺に拡大して小松島市の活性化を図り、また、ベストプラクティスとして他地域の遊休空間を抱える地方港湾でも活用できるよう取り組んでいく予定です。

詳しくは、小松島みなとオアシスKocoloにあるNPO事務局にお問い合わせください。

(NPO事務局 TEL:0885-33-0302)

平成21年度 みなとまちづくりマイスター

NPO港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま 2代目マイスター誕生

ウォーターフロント開発協会によって、新たな賑わい創出や地域の活性化など、みなとまちづくりにおいて中心的な役割を担った人が認定される「みなとまちづくりマイスター制度」が昨年度より始まっています。各地の成功事例を広く紹介するとともに、マイスター派遣等により、地域どうしの情報交換を進め、地域性豊かな「みなとまちづくり」の推進を目指した制度です。

21年度は全国で11名（四国から3名）の方が認定され、当地（徳島小松島港）からは、昨年に引き続き、主に海域からの訪問客を誘致するための「ビジターハーバー」を提唱して、ヨットレースの継続的な実施等に活躍されたNPO副理事長の森野一郎氏が認定されました。今回の認定をきっかけに、みなとまちづくりのリーダーとして益々活躍され、徳島小松島港が更なる賑わいの情報発信基地となるよう期待します。

NPO法人港まちづくり ファンタジーハーバーこまつしま

白山（前）理事長（初代マイスター）



「旅立ちの港」としての再生を目指し、常設型屋内フリーマーケット、産直市、ビジターハーバー、数々のイベントを運営し、賑わいを取り戻す活動を続けて参りました。これに賛同くださる会員の方々の輪も広がり、年間来場者数は13万人を超えるようになりました。体調不良の為、職を退かせていただきましたが、これからも港の再生を見守っていく所存です。

NPO法人港まちづくり ファンタジーハーバーこまつしま

森野 副理事長（2代目マイスター）



ヨット乗りとして「海からのみなとまちづくり」に取り組んでいます。マイスターとしての活動を通じて、小型船との文化や営みを地元で根付かせることができれば、港湾振興と地域活性化につながるのではないかと考えています。明治・大正は四国の東玄関口だった歴史の港をセーリングのメッカに再生する100年プロジェクトを1歩ずつ進めてまいります。